

# 富良野地方に発生したマイマイガ

上条 一昭 東浦 康友

北海道では、これまでにマイマイガの大発生が何回もくり返されてきたので、その大被害を体験された方は多いと思う。もっとも最近の大発生としては、1959年から1963年にわたって空知地方を中心としておきたのがあって、被害の大きかった歌志内付近では、みわたすかぎりのカラマツ造林地が丸坊主にされてしまった。さらに幼虫は畑作物を食べたり、人家に入り込んだり、成虫が燈火にとんできたりして大さわぎとなった。美唄の街でも、カラマツ林は何キロもはなれた場所にあるのに、夜になると街燈に成虫が群がってくるので、幾晩もつづけて殺虫剤を散布した。

このようにマイマイガは一たん異常発生すると、どうしようもないほどの数になるが、2～3年あるいは数年して発生が終わってしまうと、今度は非常に数が少なくなって、野外で幼虫をみかけることはほとんどなくなってしまう。変動の幅がきわめて大きい害虫である。

さて、北海道中央部では1959～63年の大発生が終わって以来、ずっと姿をひそめていたマイマイガは、1972年に富良野と美瑛のカラマツ造林地で加害しているのが発見され、発生のまんえんが心配されていたが（「林」1973年9月号67頁参照）、今年はさらにもう4箇所の造林地でも被害が発見された（図-1）。

この8月はじめ、富良野地区林業指導事務所と森林組合の方々に案内していただいて、これら発生地をひとまわりしてきた。さらに10月には3箇所の発生林分で卵塊の調査を行った。今後これらの発生地点から急激に広まっていった、大規模な異常発生となるか、あるいは大したこともなく収まるかは、現状からはまだ判断できないが、いずれにしても発生初期の段階からマイマイガの動きをとらえておくことは、今後の防除対策をたてる上で重要なことなので、以下、それぞれの発生林分の状況を述べてみたい。

## 1. 上富良野町 日新

8月にいったとき、最初に案内していただいたのがここである。なだらかな丘陵地帯に植えられたカラマツの緑の中を車で進んでゆくと、突如として目の前に丸坊主にされ褐色に変わった造林地が現われた。急に別世界に入った感じである。

南西向きゆるい斜面に植えられた8年生の林分で、樹高は5m前後、2haあまりが激害を



図-1 マイマイガの発生場所

うけていた。この林分  
の下部に隣接している  
15年生のカラマツも、  
縁に沿って丸坊主にさ  
れていた（写真-1）。

はじめてここをみて  
一番印象に残ったのは、  
激害部から徐々に微害  
部へと移行してゆく部  
分がなくて、赤褐色の  
木と緑の木が一線を画  
して接し、あざやかな  
コントラストをなして  
いたことだった。

ここへは10月にまた  
きて卵塊を調べた。発  
生の中心部では1本の木に平均  
6個の卵塊がついていたが周辺  
部、とくに北西へつづく林分で  
は卵が非常に多く、50個前後の  
卵塊をつけた木が何本もあり、  
なかには100個以上の木もあっ  
た（図-2）。

## 2. 上富良野町 日の出

上記の被害地から3kmほどは  
なれた造林地である。斜面は南向きで10年生、樹高は6m、激害は1ha弱であるが、ここでも被害の境界がはっきりしていて、左手に接している17年生カラマツは微害であった。

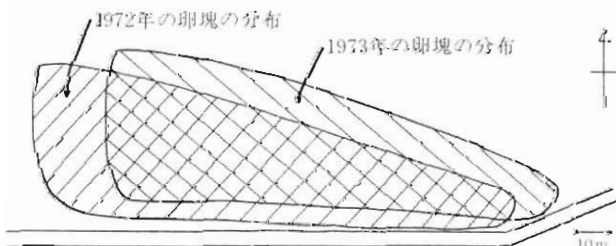


図-3 上富良野町日の出における卵塊の分布  
(10年生造林地)



写真-1 激害をうけた15年生  
カラマツ  
林内には成虫が乱舞していた  
(8月4日写す)



写真-2 マイマイガの卵塊  
1卵塊には平均400個の卵粒が  
あった。

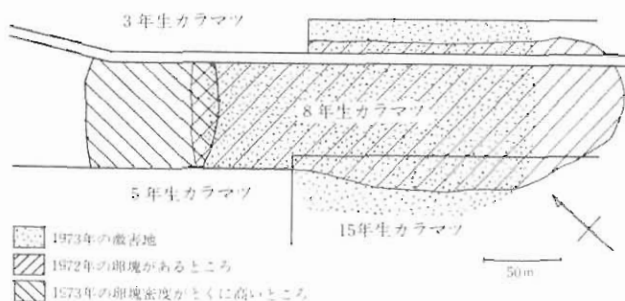


図-2 上富良野町日新における被害情況と卵塊の分布

激害は1ha弱であるが、ここでも被害の境界がはっきりしていて、左手に接している17年生カラマツは微害であった。

10月に卵塊を調べた結果では、図-3にみられるように、1972年の卵塊が多い場所と、1973年の卵塊が多い場所とは、ほんの少々ずれているだけである。卵塊数は割

合と少なく1本当たり2個であった。

なお、この林分ではブランコサムライコマユバチのまゆが沢山目についたが、とくに周辺の微害部に多かった(写真-3)。

### 3. 中富良野町 旭中

南斜面に植栽された6年生の林分で、樹高は3-4m、約



図-4 中富良野町旭中における被害情況  
南斜面の木だけ激害を受けている

3haが丸坊主にされた。狭い歩道をはさんで、北斜面にも同じく6年生のカラマツが植えられ



写真-3 ブランコサムライ  
コマユバチのまゆ

ているが、こちらには被害はほとんど認められなかった(図-4)。

### 4. 中富良野町 児童会館の裏手

中富良野町の小高い丘の上に児童会館がある。このすぐ裏手につづくカラマツ林20haに発生した。

発生の中心地と思われる場所は、北西向きのごくゆるやかな斜面に植えられた7年生の林分である。ここでは10月に林試北海道支場の昆虫研究室の人達と一緒に卵塊の調査をしたが、その結果や土地の人の話から判断すると、1973年にはこの発生中心地から南面へ幼虫が大挙して移動してきたようである(図-5)。しかしここは樹高2-3mの林分だったため、たちまち葉を食べつくしてしまったらしく、私たちより早くみにきた館山Sp.によると、幼虫は葉のなくなった新梢の軸をかじったため、芯が白く露出していたという。またこのカラマツの中に、樹高3mのトドマツ150本が植えられてあったが、これもきれいに食べつくされていた(写真-4)。マイマイガがトドマツを食害するのは珍

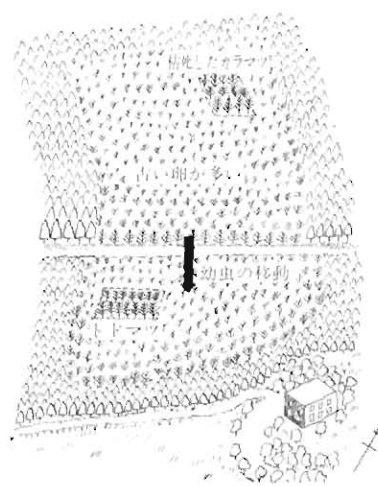


図-5 中富良野町児童会館の裏手における被害情況

しく、1953年の大発生するとき、紋別地方でトドマツ幼令造林地が加害されたという記録があるだけである(森林防疫ニュース、27号、1954年)。

激害部と無被害部との境がとくにきわだっていた場所があったが、これはこの線まで幼虫が

集団で移動してきて暴食したことを示している。

なお、発生の中心部で、団地状に200本ほどの木がカラマツヤツバキクイにやられて枯死していた。樹高は6 m、胸高直径は7～8 cmであった。マイマイガは卵塊の古さからみて、少なくとも3年前から発生していると思われるので、2年連続して加害され衰弱したところへキクイムシの攻撃をうけたのだろう。

7月はじめ、児童会館に近い部分にだけデブテレックス水和剤で防除を行ったという。

### 5. 富良野市 中五区

富良野市郊外にある山の東斜面に、3年生から20年生までのカラマツの広い造林地がある。森林組合の人の話によると、被害は1972年に発見され、5～8年生の林分2 haが丸坊主になっていて、6 haに微害が認められた。このため、1973年5月16日にデブテレックス粉剤で防除を行った。このとき幼虫は孵化したばかりで、まだ卵塊上にとどまっていたという。

しかし、8月に私たちがここへ行ったときには、林内に成虫が沢山とんでいて、また卵塊もよく目についた。小面積ではあるが、8割も葉を食べられてしまったところもあって、薬剤防除は十分な効果をあげられなかったようである。

### 6. 美瑛

富良野と同じく、ここも1972年に被害が発見された場所だが、今回は時間がなくてみる事ができなかった。

北斜面に植えられた8年生ぐらいの林分が発生の中心地であって、1972年8月にみたときには3 haが激害、このまわりの10年生以上の林分が少し色が変わって見えるぐらいの被害をうけていた。

1973年の春、同じくデブテレックス粉剤で防除を行っている。このあとみにいった館山Sp.によると、この年の被害は軽微だったという。

以上、1972年から1973年にかけて発見された被害林分についての概況を述べた。これら発生地について共通してみられる点としては、発生はすべて2令級の林分からおきていること、発生当初の面積は小さく3 ha以内であること、激害部の境界がはっきりしていること、また林分の方位は南斜面が半数の3つを占めているが、残りはそれぞれ東、北、北西斜面であることなどである。現在までは、マイマイガの発生にとって好条件と思われるせまい地域だけで高い密度を保つことができ、遠方へ分散していった個体はまだ低い密度に押えられている段階といえ



写真-4 マイマイガに食べられたトドマツ（8月4日写す）

よう。

発生地付近では卵塊の数がふえているため、1974年にはよほどの気候的な悪条件がないかぎり、幼虫の数は増加するとみてよい。これらの発生地に加えて、さらに新しい発生地が現れて大規模な発生へと進んでゆくか、または病気のまんえんなどによって衰えてしまうかは、1974年の発生状態がその鍵をにぎっているだろう。

ここで一つ気になるのは、北見地方でもマイマイガが増えはじめているらしいことである。この10月、中国の林業視察団が美幌町でカラマツ林を視察したさい、これに同行して林内の害虫をみて歩いた。このとき、ここでもマイマイガの卵塊が多いことに気がついた。30分間探しまわって全部で25個の卵塊をみつけたが、そのうち前年の古い卵塊はたった1個だけだった。調べたのはここ1箇所だけであるが、北見地方は1953年の異常発生の中心地だったという前歴もあるので油断はできない。

以上、述べてきたように、マイマイガは富良野地方だけでなく、広い範囲にわたって増加してきている形跡があるので、これからは組織的に発生の調査を行ない、必要に応じては薬剤防除もしなくてはならないだろう。

(昆虫野兎鼠科)

